

百年前の考古ロマン

—— 大衆作家「江見水蔭」と「余山貝塚」の発掘 ——

「マンガ銚子の歴史」の刊行事業として行う第1回目の歴史講演会です。今回は、縄文時代の貝塚として全国的にも著名な市内の余山貝塚に関する講演会を企画しました。

講演会では、ドキュメンタリーの考古小説である江見水蔭の『地中の秘密』を講師の先生に読み解いていただき、百年前の銚子に思いを馳せていただきます。

● 講師



日本考古学協会会員
市立市川考古博物館学芸員 **領塚 正浩氏**

縄文時代の貝塚や土器研究が専門で、
江見水蔭の人物像にも造詣が深い。

● 日時 2019年 6月8日(土) 開場 1時30分
開演 2時～3時30分頃

● 場所 **銚子市市民センター ホール**
所在地：銚子市小畑新町 7756
電 話：0479-22-0340 **【入場無料】**

● 主催 **マンガ銚子の歴史刊行会**
銚子の歴史をマンガと図鑑にして刊行をめざす
市民団体です。「銚子の歴史はスゴイぞ！」

● 後援 銚子市 銚子市教育委員会
余山貝塚美化の会



えみ すい かげん
江見水蔭

江見水蔭（1869～1934）は、「金色夜叉」の著者で知られる尾崎紅葉が主宰する博文社の小説家の一人です。一片の土器片を見て興味が覚醒し、日買め、ドキュメンタリー中心の考古小説『地底探検記』『地中の秘密』『三千年前』を執筆し、石器時代（現在の縄文時代）の遺跡や遺物の探検に大きく貢献しました。「地中の秘密」には、余山貝塚の発掘に関わった地城住民や岩泊先の断崖が実名で登場し、百年後の発掘の様子リアルに描かれています。

